

4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等

【成人市中肺炎の重症度(注1*)別患者数の集計方法と定義】

◆成人の市中肺炎（令和6年度様式1の「肺炎の重症度分類」の7桁目＝5に相当）につき、重症度別に患者数、平均在院日数、平均年齢を示す。

◆入院の契機となった傷病名および医療資源を最も投入した傷病名に対する ICD10 コードが 両方とも J13～J18\$ で始まるものに限定する。

◆重症度分類は、A-DROP スコアを用い、軽症～超重症の4段階で表記する。重症度分類の各因子が一つでも不明な場合は「不明」と分類する。重症度の計算には年齢・性別因子を考慮すること。

(注1*)肺炎の重症度とは 重症度の判定【引用元】:成人市中肺炎診療ガイドライン 日本呼吸器学会「呼吸器感染症に関するガイドライン」

Age(年齢)	男性70歳以上、女性75歳以上
Dehydration(脱水)	BUN 21mg/dL以上または脱水あり
Respiration	SpO2≤90%(PaO2 60Torr 以下)
Orientation(意識障害)	意識障害あり
Pressure(収縮期血圧)	収縮期血圧90 mmHg以下

※5点満点で、1項目該当すれば1点、2項目該当すれば2点。

軽症：0 点の場合
中等症：1～2 点の場合
重症：3 点の場合
超重症：4～5 点の場合
ただし、ショックがあれば1項目のみでも超重症とする。
不明：重症度分類の各因子が1つでも不明な場合。

◆各重症度における患者数が10件未満の場合は、全ての項目について「－」を表示する。

(注2*) ICD10とは「疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems（以下「ICD」と略）」とは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関（WHO）が作成した分類である。【引用元：厚生労働省HP 疾病、傷害及び死因の統計分類】

(注3*) 市中肺炎とは通常の社会生活を送っている中で発症した肺炎です。通常はインフルエンザ等のウイルスによるものも含まれますが、本指標では除外します。

4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	25	9.48	53.32
中等度	109	19.08	77.41
重症	24	9.83	83.50
超重症	19	13.26	84.95
合計	177	12.91	74.80

10未満の数値は「-」で示しています。

【解説】

本邦の死因3位の肺炎ですが、やはり高齢者肺炎が増加しており、特に慢性呼吸器疾患をお持ちの患者さんは繰り返し肺炎に罹患される方もいらっしゃいます。高齢で合併症を有する肺炎は重症化の危険性も高く、適切な抗生剤の使用や酸素投与などの支持療法が大切となります。また長期入院に伴う廃用性の筋力・体力低下を防ぐため、なるべく早期の理学療法導入を心がけております。

患者数が最も多いのは中等症です。他重度も少なからず存在しています。

重症は入院での治療が必要となることを示している。